

基本施策III

スポーツを通じたともに生き豊かさが実感できる地域の創造

～東京オリンピック・パラリンピック「スポーツ・レガシー」の継承及び共生社会の実現と地域の活性化～

地域と連携した運動・スポーツ活動の推進により共生社会の実現を目指すとともに、おかやまマラソンやトップクラブチームの活躍、第79回国民スポーツ大会冬季大会等の開催を通じて地域の活性化に取り組み、東京オリンピック・パラリンピック「スポーツ・レガシー」を継承します。

1 地域と連携した運動・スポーツ活動の推進による共生社会の実現

【現状と課題】

- ◆総合型地域スポーツクラブは、「誰でも」「いつでも」「世代を超えて」「好きなレベルで」「いろいろなスポーツ」を日常的に楽しむことができる多種目、多世代、多志向のスポーツクラブで、地域の人々によって自主的に運営されています。
- ◆県内には、令和4年（2022）年7月末時点で、21市町に43クラブがあります。地域における運動・スポーツの担い手であるとともに、学校運動部活動との連携、スポーツを通じたまちづくりへの参画など、地域課題の解決や活性化に取り組むクラブもあります。
- ◆国の「第3期スポーツ基本計画」では、総合型地域スポーツクラブについては運営体制の強化や行政との連携が課題となっており、地域で様々な住民が一人一人のニーズに合わせたスポーツをするための場、プログラム、指導者等の環境の充実が必要であるとしています。
- ◆一方、会費収入だけでは運営が困難な総合型地域スポーツクラブも多く、運営基盤が盤石とは言えない状況です。自主財源や人材の確保、事業拡大に向けてのNPO法人格の取得促進など、運営の安定化も課題となっています。
- ◆総合型地域スポーツクラブの創設や育成を支援することが期待される広域スポーツセンターについては、日本スポーツ協会、SC全国協議会（総合型地域スポーツクラブ全国協議会）、（独）日本スポーツ振興センター（以下、「JSC」という。）等と連携し、広域スポーツセンターを含めた支援主体の役割分担を明確化して支援体制の再構築を図っており、本県では、県スポーツ協会がその役割を担っています。
- ◆東京オリンピック・パラリンピックを契機とした県民のスポーツへの関心の高まりを、「スポーツ・レガシー」としてスポーツを通じたまちづくりの取組に転化させ、将来にわたって継続させていくことが重要です。

【今後の施策展開の方向】

●総合型地域スポーツクラブの創設や充実への支援

- ・県スポーツ協会や市町村等と連携し、住民ニーズに応じて総合型地域スポーツクラブ設立の働きかけを行います。

- ・日本スポーツ協会が作成した「持続可能な推進に向けた取組の指針の到達に向けた評価指標（KPI）」等の活用を促進し、PDCAサイクルにより運営の改善等を図り、自立的で安定した運営のできるクラブの増加に取り組みます。
- ・総合型地域スポーツクラブの指導者が学校の運動部活動を指導するなど、総合型地域スポーツクラブと学校運動部活動の連携に取り組みます。
- ・総合型地域スポーツクラブによる地域課題の解決のための取組等を把握し、先進事例の情報提供等を通じて、総合型地域スポーツクラブの質的充実を支援します。
- ・県スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブ岡山協議会と連携し、総合型地域スポーツクラブ間の情報共有を図り、生涯スポーツの振興について取組を進めます。
- ・障害のある人が身近な地域で気軽にスポーツ活動に参加できるよう、総合型地域スポーツクラブの「地域スポーツクラブへの障がい者スポーツ導入ガイドブック」を普及し、障害のある人の受け入れが促進されるよう取り組みます。

●広域スポーツセンターの機能充実

- ・広域スポーツセンターが行う総合型地域スポーツクラブの未設置市町村への設立支援や運営及び活動の活性化支援、総合型地域スポーツクラブ間のネットワーク強化、スポーツボランティアの育成等を支援します。

●スポーツ・健康まちづくりの推進

- ・東京オリンピック・パラリンピックを契機として、スポーツを通じた健康づくりやまちづくりを行う地域や新たに取組む地域を市町村等の状況に応じて支援します。

2 大規模スポーツイベント、合宿等を通じた地域活性化

【現状と課題】

- ◆県内には、岡山県総合グラウンド内にある陸上競技場（愛称：シティライトスタジアム）・体育館（愛称：ジップアリーナ岡山）、美作ラグビー・サッカー場、備前テニスセンター、倉敷マスカットスタジアムなど、全国規模のスポーツイベントの開催や日本代表クラスのスポーツ合宿が可能な施設が充実しています。また、県スポーツ協会が管理運営する玉野スポーツセンターは、県内外の学生等の研修や合宿施設として重要な役割を果たしています。
- ◆世界レベルや全国規模のスポーツイベント、トップチームの合宿等を誘致することにより、子どもたちとトップ選手との交流だけでなく、地域をあげてのおもてなしによる一体感や活力の醸成、マスメディア等が取り上げることによる地域の情報発信にもつながります。
- ◆新型コロナウイルス感染症の影響によりマスカットスタジアムでプロ野球の開催ができない年もありましたが、公式戦とオープン戦の開催数を増やすことができるよう誘致活動を進め、球場周辺の賑わいづくりにつなげる必要があります。
- ◆平成27（2015）年にスタートした「おかやまマラソン」は、ボランティア参加も含めて、県民が様々な形でスポーツに参画する契機となり、スポーツへの関心

の高まりやおもてなし気運の醸成など、地域の活性化につながっています。

- ◆おかやまマラソンへの参加、トップクラブチームの試合観戦など、スポーツの参加や観戦を目的に来県する人が、県内の観光地を訪れたり、食事や買い物を楽しんだりするという効果も生まれています。
- ◆豊かな自然環境などの地域資源とスポーツを掛け合わせて観光を楽しむスポーツツーリズムが多様化しており、県内でも、このようなイベントの開催及び環境整備等が進んでいます。

【今後の施策展開の方向】

●大規模なスポーツ大会等の誘致、開催支援

- ・スポーツの裾野拡大による競技力の向上、スポーツを通じた情報発信や地域活性化を図るため、世界レベルや全国規模のスポーツイベント、国を代表するレベルのチームの合宿を誘致し、その開催を支援します。
- ・平成17（2005）年に県をはじめとする行政機関、経済団体、報道機関等32団体で設立した「岡山にプロ野球を誘致する会」を中心に、マスカットスタジアム（倉敷スポーツ公園野球場）へのプロ野球誘致の働きかけ、観客動員につながる各種活動や球場周辺の賑わいづくりを展開します。
- ・県内の充実したスポーツ施設について、ホームページやSNS等を活用して情報発信に取り組みます。

●おかやまマラソンによる情報発信と地域経済の活性化

- ・大会運営に係る改善を図るとともに、岡山らしいおもてなしに一層工夫を凝らすことで大会の満足度を高め、全国に向けた情報発信につなげます。また、県外からも参加を促すことで地域経済の活性化を図ります。

●スポーツツーリズムの推進

- ・「シー トゥー サミット」（備前市）、「ヒルクライムチャレンジシリーズ」（高梁市）など市町村が開催するイベントについて、情報提供をはじめとした支援を行い、地域の活性化及びスポーツツーリズムの推進を図ります。

3 トップクラブチームを核とした地域活性化

【現状と課題】

- ◆県内を拠点に活躍するトップクラブチームは、県民に夢や勇気、感動を与えてくれる本県の地域資源であり、県民の一体感の醸成やスポーツを通じた地域の活性化に貢献しています。
- ◆トップクラブチームの活躍は、県民がスポーツに関心を持ち、「する」「みる」「ささえる」という様々な形でスポーツ活動に取り組む契機ともなっています。
- ◆一方、新型コロナウイルス感染症等の影響により、トップクラブチームのホームゲーム観客動員数が減少しているところですが、県民がスポーツを楽しむことができるような仕組みを考えていくことは重要です。
- ◆引き続き、トップクラブチームのホームゲームと連携した応援イベント等を開催し、また、トップクラブチームに所属する選手・指導者によるスポーツ教室等を

通じて、ファン・サポーター等の拡大及び運動・スポーツ活動の機会の提供に取り組む必要があります。

- ◆県外からの誘客促進や県域を越えた交流、観光・物産による地域の活性化をより推進していくために、トップクラブチームのホームゲーム等と連携し、県内外のファン・サポーター等に対して効果的に情報発信することも重要です。

【今後の施策展開の方向】

●トップクラブチームの応援機運の醸成

- ・ポストコロナにおいても、安心してトップクラブチームのホームゲームに会場してもらえよう感染防止策を徹底した上で、観客数やファン・サポーター等が増加して支援の輪が広がるように、各種広報媒体を通じたチーム活動の広報やホームゲームを盛り上げるイベントの開催などにより、応援気運の醸成を図ります。

●トップクラブチーム等との連携による交流促進と地域経済の活性化

- ・Jリーグ所属チームがホームタウンとしている中四国の自治体と連携し交流を深めるとともに、岡山の観光情報の発信や、アウェイサポーターに向けた岡山への誘客促進を図り、地域活性化へつなげます。
- ・Jリーグ以外のトップクラブチームとも連携し、ホームゲーム等を活用しながら、地域の活性化やスポーツツーリズムの推進を図ります。
- ・トップクラブチーム間のさらなる連携強化を促進し、県全体における地域経済の活性化に寄与します。

●トップクラブチームと連携した取組（基本施策I-1再掲）

- ・県内を拠点に活躍するトップクラブチームのホームゲーム等を活用したスポーツ体験や、トップクラブチーム等に所属する選手・指導者を学校やスポーツ少年団等へ派遣するスポーツ教室等を通じ、運動・スポーツ活動の機会の提供に取り組めます。

●環境の変化に応じた支援

- ・新型コロナウイルス感染症等の影響による観客動員数の減やリーグの再編等トップクラブチームを取り巻く環境の変化や、新たな時代の動きに応じて、支援を行います。

4 第79回国民スポーツ大会冬季大会の開催

【現状と課題】

- ◆「第79回国民スポーツ大会冬季大会スケート競技会（ショートトラック・フィギュア）・アイスホッケー競技会」が令和7（2025）年に本県で開催されることが、令和4（2022）年7月に決定しました。
- ◆これらの競技会は、これまでその競技特性などから東日本などの限られた地域でしか開催されておらず、西日本で開催されるのは今大会が初めてとなります。
- ◆この機会を活用し、本県の多彩な魅力を全国に発信するとともに西日本における冬季大会の開催可能性を広げる新たな国民スポーツ大会の実現が求められています。

【今後の施策展開の方向】

●大会の成功

- ・会場となる岡山市、倉敷市をはじめ、関係機関及びスポーツ団体との緊密な連携のもとに、大会の運営に万全を期し、大会の成功につなげます。

●本県の魅力を全国に発信する大会

- ・全国からの参加者をおもてなしと感謝の心をもって歓迎し、豊かな自然、歴史史跡、アートスポットや自慢の逸品など、温暖な気候に恵まれた岡山の魅力発信や地域の活性化につなげる大会を目指します。

●今後の冬季大会のモデルを目指した大会

- ・既存施設の有効活用や効率的な大会運営など、過去の例にとらわれず、不足するリソースを新たな視点や工夫によって補うことで、今後の冬季大会の開催が全国各地へと広がる新しいモデルとなる大会を目指し、冬季スポーツの普及・振興に寄与します。

●「スポーツ立県おかやま」の発展に資する大会

- ・本県の競技力向上を図るとともに、冬季スポーツに親しんでもらう機会の創出や魅力のPRにより、スポーツの振興と健康で活力に満ちた社会の実現に寄与します。